



# 医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信第 104 号



## 第104回ワーキンググループ会議 (R4.9.22)

### 「コロナ禍での在宅療養、看取り支援の実際 ～ケアマネの立場から～」

#### ●話題提供者

(有)もも薬局 代表者/主任介護支援専門員/薬剤師  
岡本 雅子 さん

ケアマネジャーであり、薬剤師でもある岡本さんからは、複数の事例紹介とあわせて、コロナ禍でそれぞれどのように患者ご本人やご家族に寄り添ってこられたのかお聞きしました。今回は、医師・看護師・行政職など37名の方が参加されました。



岡本雅子さん

家族が亡くなることは寂しく、喪失感はずっと後から来る。家族は、亡くなった時点で「じゅうぶんな時間が過ごせた」という思いになれば良いと思う。在宅看取りが叶うのは、本人が「この場所で最期を迎えたい」と望み、また、家族もそれを望む場合。認知症などで本人が意思表示できなくなるかもしれない将来に向けて、色々な場面で表出される思いや言葉を記録するようにしている。

#### アドバイザーの犬塚先生(滋賀県立総合病院)より

どう在宅看取りをしていくかということよりも、本人の望む場所でどう生き抜くかを演習していくことが大事なのだと思う。滋賀県の医療従事者が、同じようなマインドを持つチームとなれるように、皆で研修しながら雰囲気作りをやっていければ良い。

痛みを取って欲しいとか、できれば薬を飲みたいなどのざっくりとした思いを聞いていたということであったが、それが私が普段から思っている ACP。そういうざっくりとした思いをみんなで共有し、それに対して一歩ずつ叶えてあげられるようなケアをみんなでしていければ良いのではないかと思っている。

#### 参加者の声

- ・在宅医療の良さは、家族に支えられて最期を迎えられること。それは本当に素晴らしいが、一方で難しいところもある。本人の希望を聞けないケースも多いのではないかな。
- ・介護の話を聞くと、家族とご本人の意見が割れることがよくあるが、本日の事例ではご本人と家族と介護者が非常に一体化されており、そういった雰囲気うまく作ってらっしゃったのではないかなと思った。
- ・本人がやりたいことをさせる状況を作り、それをサポートするのがケアマネのあるべき姿ではないかなと感じた。ただし、そのただ一つの条件として「時間」が必要であり、急変など非常に状況が動いているケースでは難しい。そういう時に備えて、早くから本人や家族の希望を確認することは重要と感じた。
- ・背景の問題点として、医師をはじめとした在宅医療に関わる人の人材育成がある。家族へのグリーンケアも重要と感じた。
- ・地域包括ケアの中でも言われていることであるが、制度だけでなく、人と人とのつながりのもとで支援を作り上げていくことの大切さが現実の話としてよくわかった。
- ・訪問診療をしてくださる医師が高齢化しており、超高齢化や多死社会など、これからどうい社会になり、地域社会をどう支えていくのか。コロナをきっかけに、病院より在宅で治療が出来るようになる人が増えた実感している。
- ・ケアマネが、本来の役割を越えていろいろなことを担わされている。制度の隙間、あるいは多職種連携の隙間を埋める役を強いられる現状があり、そういった活動が報酬にカウントされていない。やはり、多職種連携を進めていくには核となる医師の指示が必要で、医師を核にして地域の多職種連携を進めていくこと、あるいはスキルアップを図っていくことが大事だ。人々の生活に理解があったり、人々に寄り添える医師が増えていくことに期待したい。
- ・家族の立場から患者の状態をみているとそれほどひどい状況ではないと思っていたのに、認定審査の結果に驚いた経験がある。その後の経過をみて納得したが、家族側としては、「こういう状態だとこういう経過をたどる」という見通しがあると良いと思う。
- ・まさに「街のケアマネさん」。こういう方が近くにいたら頼もしいし、何でも相談できるのはありがたい。家族の中で最期を迎えられるようかなり丁寧に調整してこられたのではないかなと思う。

#### 「滋賀の医療福祉を守り育てる」 県民フォーラム



今年のテーマは「いつまでもイキイキ!ハツラツ!」  
いつまでもイキイキと社会とつながるために、共に楽しく学ぶフォーラムを開催します。



#### ●オープニング

「尿もれを防いでリラックス!  
～ほぐしてゆるめて引き上げ体操～」

#### ●第1部

「セルフマッサージで見た 目も気持ちもスッキリ爽快!若見え講座」

#### ●第2部

「元気ハツラツ!効果的なウォーキング講座」

#### ●第3部

Instagram フォトコンテスト

「じいじ ばあばと一緒に時間+モア」

受賞作品 上映&表彰式



【開催日時】令和4年11月27日(日)

14時～16時30分(受付13時30分～)

【会場】ピアザ淡海 ピアザホール

(大津市におの浜1-1-20)

【会場定員】200名(定員に達し次第、締切ります)

【参加費】無料 ※参加者には滋賀県産米「みずかがみ」、オリジナルノートを進呈

※席に余裕があるため、当日受付も実施します。お知り合い等もお誘いいただき、ぜひご来場ください!

詳細はこちら⇒



医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局  
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

e-mail: info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

HP: mitori.siga.jp

